



事業所開所時に養豚場の一部業務を受託し、養豚業を開始。その後、廃業予定であった別の養豚業者から事業継承を受け、現在は母豚230頭、育成頭数2,200頭の一貫生産を実施し、地域の畜産業の維持に貢献。

福祉事業所

宮城県  
大崎市



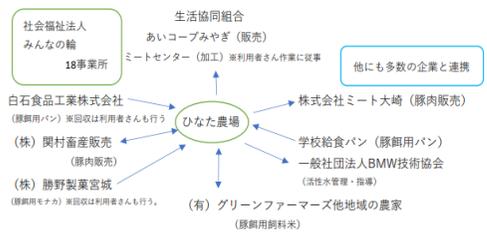
基本情報

設立:H14年 / 農福連携取組開始:H26年  
 ※ひなた農場での農福連携開始はR4  
 主な選定表彰:仙台市中央卸売市場食肉市場開設周年記念  
 枝肉共進会(48、49、50周年)優秀賞

概要

主力商品 (農作物)豚肉

体制図



住所:宮城県大崎市田尻大貫北長根91  
 TEL:0229-87-8620  
 Mail:Wahawa-tajiri@minnanowa.org  
 URL:https://www.minnanowa.org/

きっかけ

H26年

事業所開所とともに生活協同組合あいコープみやぎが運営する養豚場の一部業務委託を受け養豚業を開始し、平成30年に全面委託。

人を耕す

- 利用者だけで作業に取り組むことも出来てきており、作業スピードも向上。
- 一つ一つの作業の工程を細分化し、障害特性に合わせた作業内容を提供。

地域を耕す

- 令和4年に廃業予定であった養豚事業者から事業継承を受け、養豚業を引き継いだことで、地域の畜産業の維持に貢献。
- 取り組みを地域にも知ってもらうため、年1回遠田地区の事業所が集まりお祭りを開催。
- 地域の農家や畜産業者と交流し、情報交換などを含めた連携を図り、地域活性化にも寄与。

未来を耕す

- アニマルウェルフェアへの取組も開始。
- 同法人内や食品会社、学校給食から廃棄で出た食パン、地域の農業者からの飼料米等を活用し、飼料を製造。地元の小学校への豚肉の供給スタート(10月~)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

成果

被害者数	—
売上高	2億2,016万円(R5) →2億5,736万円(R6)

- 利用者が農機具まで扱えるようになり作業の幅も拡大。

施設外就労等で障害者を受け入れ、AIを活用しながら工賃の向上を实践。ICT業界と農業界を繋ぐ農工福連携の実現を目指し、取組を実施。



基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:R4年  
 取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R5~R6年) 認定農業者(R3年)  
 主な選定表彰:令和7年ディスカバー農山漁村の宝 東北局奨励賞 令和5、6年秋田県種苗交換会菌床椎茸3等 令和2年JA秋田ふるさと枝豆優良賞

**概要**  
**主力商品**  
 (農作物)米・菌床しいたけ・枝豆・玉ねぎ  
 (加工品)椎茸のうま煮、しいたけ入り焼きそば、乾燥しいたけ、いぶりがっこ、干芋  
**特徴的な取組**  
 スマート農業、輸出、6次産業化、ユニバーサル農園 等

**体制図**  
 「就労継続支援B型イオ・グランデ条里」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「NPO法人太陽の園」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「就労継続支援B型フレッシュワーク」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「就労継続支援A型みらいワーク」で野菜キャラクターデザイン、販促グッズ制作 株式会社みずほライスで障がい者を正規雇用

住所:秋田県横手市睦成字久保目110  
 TEL:090-6567-5284  
 Mail:Kumagai-m.mzh@ace.ocn.ne.jp  
 URL:https://mizuho-akita.com/

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きっかけ

R4年

農福連携の工賃向上を目指し、前職のICT業界での経験や技術を活用して、成果を上げられる障害者雇用を実施。

人を耕す

- 施設外就労障害者に指示を行うリーダー職として、障害者正社員を採用。
- 誰でも同じ成果を上げられる装置や仕組みを導入することを考え、AIを活用した椎茸の選別機、菌床の濁さを顔文字で表示する機械の共同開発や、白米の自動計量パック機械等を導入。
- 人が集まる農福連携マルシェ用のログハウスなど、心地よい距離感で社内・社外ともに交流できる職場環境を整備。

取組

- 農福連携は小さな圃場で多品目を栽培。荒廃農地の有効活用で、いぶりがっこ用だいこん、雪ノ下にんじん、空心菜、など特色ある農産物を栽培。
- 横手北小学校や養護施設の子供たちと田植え体験、稲刈り体験を毎年行い、地域の子供たちや高齢農業者との農業交流を実施。

未来を耕す

- 損益改善を図るため、AIやセンサーを活用したスマート農業を实践。
- 障害者に合わせた仕事ができるシステムや仕組みを創り、成果を上げ、工賃向上を目指した農福連携による加工センターを運営。
- R7年産地立地型PJに採択され、椎茸規格外品を使った6次産業化の取組を実施。

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
13,000円(R4) →15,000円(R6)	10人(R4) →15人(R6)	1億200万円(R4) →1億6,300万円(R6)	60ha(R4) →75ha(R6)

成果

- 毎朝朝礼を実施。会社理念である「生き辛さを抱えた方々を支えること」を伝え、障害者の方へ寄り添い、思いやる心を育成。
- 農福連携の取組に共感した首都圏の5つ星ホテルからお米購入の申し出があり、販路が拡大。
- R7に就労継続支援B型事業所で時給1,000円を開始。
- 就労継続支援A型事業所から農作業体験の受け入れを経て、正社員として雇用。
- R5特用林産振興支援事業に採択され「AI椎茸選別機」を開発。これにより障害者も訓練不要で選別ができる環境が実現。

## JX金属株式会社の特例子会社。多様な方々が生き生きと働ける社会の実現を目指し、自前型・援農型両方の農福連携を実施。

特例子会社



### 基本情報

設立:R4年 / 農福連携取組開始:R5年  
主な選定表彰:令和7年度障害者雇用支援月間における絵画・写真コンテスト独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞

**概要**  
主力商品 (農作物)野菜  
特徴的な取組 環境保全型農業

**体制図**  
JX金属株式会社  
↓  
JX金属コーポレートサービス株式会社 (JX金属株式会社の特例子会社)  
※内原ファームはJX金属コーポレートサービス株式会社の組織  
※茨城県水戸市内原にある農業専門学校日本農業実践学園内に事務所・圃場・農業機械を借用し事業を実施

住所:茨城県水戸市内原町1463-48  
TEL:070-1563-1136  
Mail:uchiharafarm@jx-nmm.com  
URL:https://www.jx-corp.com/

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

R5年

JX金属の特例子会社として、農福連携によって、障害者がやりがいをもって働ける環境を構築できると判断し、事業を開始。

取組

人を耕す

- 人事制度では、能力・成果を昇給や賞与に反映する仕組みを構築。やりがい作りのため、全員リーダー制や日々の作業に希望制を導入。
- 雇用障害者のうち1名は、正社員にステップアップし、職場のリーダーとして活躍。
- 生産した農作物を、各地に工場を持つJX金属の従業員への販売や工場の食堂で活用するほか、農業体験・社員研修の場として活用し、グループ全体の障害者理解に貢献。

地域を耕す

- JX金属、Jリーグクラブ水戸ホーリーホック、日本農業実践学園の3団体で連携し「農業×福祉×スポーツ」の地域活性化に向けた農福連携+αの仕組みを構築。
- 日本農業実践学園の指導を受け、伝統的な技術と有機農法手法を継承するほか、同学園及び水戸ホーリーホックの農事業の繁忙期に援農を実施。
- 従業員家族イベントでの農作業体験、近隣保育園児の農業体験の受入れ・食育等を実施。

未来を耕す

- 水戸ホーリーホック障害者サッカーチーム所属員の中で就労希望があれば内原ファームで採用するといった相互の人的交流の仕組みを構築。
- 内原ファームの障害者が販売会等に参加し、生産した農作物を自ら販売することで社会との繋がりをを感じるきっかけとなり、地域の障害者理解にも貢献。

成果

平均賃金月額	障害者雇用数	売上高	農地面積
12万円(R5) →13.1万円(R6) ※+年2回の賞与	4人(R5) →8人(R6)	104万円(R5) →180万円(R6)	70a(R5) →70a(R6)

- 農作業に関連する資格取得を希望する者には会社で支援し、刈払機取扱作業従事者講習6名受講、大型特殊免許3名取得。
- 加工や農業以外の仕事を作ることで、多くのやりがい・モチベーションの創出。内原ファームの障害者が、仕事をする中で自信を取り戻し、障害者手帳返納。
- 障害のある家族をもつグループ従業員から就業希望の相談を受けるなど、従業員の家族からも頼られる事業へ発展。

様々な関係者と連携して農林水産業の多様な仕事を農福連携等で請け負い、年間を通して作業を確保。生きづらさや働きづらさを抱えた障害者や引きこもり、生活困窮者等の地域における居場所作りに貢献。



基本情報

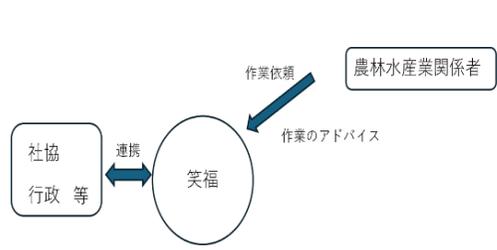
設立:R2年 / 農福連携取組開始:R2年  
 取得認証等:認定農業者(R5年)

概要

**主力商品**  
 (農作物)いちご、米  
 (加工品)スマッジ、ヒノキオイル、ヒノキ石鹸

**特徴的な取組**  
 林福連携(ヒノキを使った加工品)、水福連携

体制図



住所:三重県北牟婁郡紀北町馬瀬390-2  
 TEL:0597-31-0294  
 Mail:umaze.fuku@gmail.com

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

きっかけ

R2年

支援を望む農家など地域の声に対し、就労により収入を得て自立したい障害者や生活困窮者の声があったことから、双方の課題解決を図ることを目指して活動を開始。

取組

人を耕す

- 地域の農業・林業・水産業の多様な仕事を請け負うことで、個人の特性に応じた仕事を年間を通して振り分けることが可能。
- 個人の作業習熟度に合わせて、ハウス管理を一任したり、しめ縄づくりの担当者として、新規入所者の指導を任せたりと、責任をもって仕事ができる環境を整備。

地域を耕す

- 日本農業遺産である尾鷲ヒノキ林業の維持のため、スマッジづくりやヒノキオイル、ヒノキ石鹸づくりを通じて新たな需要の開拓に向けた取組を実施。
- 県内のカキ養殖のロープ補修など、地域内外の関係者と連携して取り組み、水産業の維持に貢献。
- 地元の小学校と連携して、田植えや収穫、カカシ作り体験を実施し地域との関係性を構築。

未来を耕す

- 地域の農林水産業の維持を図るため、生活困窮者や引きこもりの方など多様な人が様々な作業に携わり、双方の課題の解決を図りながら地域産業の維持に貢献。
- ヒノキの葉のスマッジ・オイル・石鹸への加工など、室内での作業が必須の障害者等にとっても取り組みやすい作業を確保。

平均給与月額	障害者数	農地面積	—
10,000円(R2) →25,000円(R6)	3人(R2) →7人(R6)	0.6ha(R2) →6.0ha(R6)	—

成果

- 同じ作業を皆で行うため、自然と良好な関係性が構築され、相互理解が促されている。
- 取組開始当時は半日勤務で1万円ほどの月給だったが、R6年は2万5千円に増加。
- ひきこもりである者には、個人の特性に合わせて、しめ縄づくりやヒノキ加工等の内職に取り組んでもらうことにより、ひきこもりからの脱却につなげている。
- 荒廃農地の活用は60aから600aまで拡大し、農地の維持と地域農業の維持に貢献。

障害者や生きづらさを抱える者等に対し、滞在型の自然農法による農作業を提供。地域との交流を図りながら多様な人が働く環境を創出し、定住や新規就農へと繋げる取組を実施。



**基本情報**  
 設立:S48年 / 農福連携取組開始:R4年  
 取得認証等:認定農業者(H20年)  
 高収益作物時期作支援交付金事業(R2) 等  
 主な選定表彰:ダルメインWorldマーマレード&フェスティバル(2019~2022)金賞  
 料理王国100選2023入賞(果実酒(甘夏))

**概要**  
**主力商品**  
 (農作物)米、野菜、果樹(柑橘類)、ハーブ類  
 (加工品)マーマレード、ジュース  
**特徴的な取組**  
 自然農法、農薬不使用、環境保全型農業

**体制図**  
 福岡正信自然農園: 柑橘を中心に、米・麦 等を生産  
 「空と大地 B 型事業所」:3年前から農繁期や福祉の適正にあった仕事があるときに作業を委託  
 知人の法人に所属する重度の身体・知的障害者:5年前から法人のスタッフと共にサポートしながら農作業に当たってもらっている。  
 自然農法を学びたい人の受け入れ:年間20名程度(半分は海外から)が自然農法を勉強しに農園に滞在。農業を勉強したいだけでなく、生きづらさを抱える人や人生に悩む人が数多く滞在。

TEL:0744-34-7271  
 Mail:fmasanobu@nihon-sogo-engel.com  
 URL:https://f-masanobu.jp/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

きっかけ

R4年

従業員の家族である重度障害者の方に20年以上前から農作業を手伝ってもらってきたことから、障害者と農作業の親和性を感じ、福祉施設との連携を開始。

人を耕す

人

- 就労継続支援B型事業所への委託は、取組当初から1名あたり時給500円に設定。
- 得意なことや個々の性格、やりたい仕事に応じて作業を切り分け実施。
- 障害者や生きづらさを抱える者、また自然農法を学びたい者に対し、年間20名程度(半数が海外から)に住環境と食事を提供し、多様な人と農作業に携わり、自然への関わり方を覚える機会を提供。

取組

地域を耕す

- 自然農法の根幹となる「粘土団子づくり」のワークショップを地域の小学校で毎年実施し、地域との交流を図っている。
- 山椒の植え付けなど手間のかかる農作物の作付を拡大し、連携先の就労継続支援B型事業所の業務量増加に寄与。

未来を耕す

未来

- 自然農法で障害者など多様な人が働く場所を創出し、定住や新規就農につなげるなど、地域農業の維持・発展に貢献。
- 規格外品や豊作年の余剰作物をマーマレードやジュース等に加工。マーマレードは国際的なアワードで金賞を受賞。

障害者数	農地面積		
1人(R4) →7人(R6)	10ha(R4) →10.4ha(R6)	—	—

成果

- 多様な人が自然の中でそれぞれ得意とする力を発揮し、互いの違いを認め合う地域コミュニティが育つ環境を創出。
- ニューヨークの雑誌「Atmos」でも農園が紹介された他、NHK のドキュメンタリー番組が2年半~3年にわたり密着取材し、BS で放送。
- 滞在型による農作業の機会を提供することで、その後5名程度が新規就農を実現。
- 農福連携の取組を開始して3年で50a程度農地を拡大。